

海洋エネ人材育成へ

本県産学官 普及実行委を発足

本県産学官が「海洋再生可能エネルギー普及啓発事業実行委員会」を発足させた。本県が力を入れる海洋エネ関連産業への若者の関心を高めるため、体験型講座や先進地派遣などの事業を展開、人材育成を図る。

県と長崎、五島などの5市町、長崎大、長崎総合科学大、NPO法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会などをつくり、7月27日に発足。会長には経塚雄

策・長崎大教授が就いた。

直近では今月6～13日、大学生と高校生計4人を「長崎海洋大使」として先進地の英スコットランドへ派遣、研究施設の見学や関係企業の訪問をしてもらう。23、24両日は五島市でペットボトルを使った浮体式洋上風力発電機や簡易的な水中探査ロボットを作る子ども対象の講座を開く。県内で広く展開できるように指導者育成や指導マニユ

アルづくりも進める。いずれも海への関心を高める日本財団の助成事業を活用する。

関係者が4日、県庁で記者会見した。実行委副会長の松岡和彦・長崎総合科学大准教授は「子どもの関心が海そのものから、海洋エネ技術へと広がるように継



ペットボトルを使った浮体式洋上風力発電機や水中探査ロボットについて説明する松岡副会長（右）

県庁

2017.8.8 長崎新聞
(掲載の許可を得ています)

続的に啓発し、最終的に地元企業で活躍できる人が出てきてほしい。地域の漁協やNPOとも連携していきたい」と展望を語った。

(田賀農謙龍)